

## 下向山遺跡・清水井遺跡・打越岱遺跡展示解説

## 袖ヶ浦市教育委員会生涯学習課

## ①弥生時代後期～古墳時代前期にかけての集落の様相—下向山遺跡・清水井遺跡—

平岡地区には数多くの遺跡がありますが、その多くは弥生時代後期～古墳時代前期（今から約 2,000 年前～1,700 年前）にかけて急激に増加してきます。

平岡公民館から南東へ約 1.5 kmの標高 40～80mの台地上に所在する下向山遺跡と清水井遺跡も弥生時代後期～古墳時代前期を中心とする遺跡になります。両遺跡が立地する台地は、県道や土砂採取によって現在は東西に分断されていますが、もともとは西側の小櫃川の低地に突き出した地続きの東西に細長い台地でした。台地中央から東側に位置する下向山遺跡は住居を中心とする「居住域」となるのに対し、台地の西側先端部に位置する清水井遺跡はお墓を中心とする「墓域」となります。台地中央の標高が高い部分を居住域、台地先端の標高が低く低地を見渡せる部分を墓域として台地を使い分けて集落が営まれていたのかもしれません。

## 弥生時代後期～古墳時代前期の大集落 —下向山遺跡—

下向山遺跡は、標高 60～80mの台地中央から東側に立地しています。昭和 63 年から平成 4 年、平成 15 年にかけて 9 回の発掘調査が行われた結果、弥生時代後期～古墳時代前期の住居が 150 軒以上も発見され、大規模な集落であることがわかりました。

本調査が実施された標高 80m程の台地平坦面からは 73 軒の住居が発見されました。住居の形や出土した遺物から、集落が営まれた時期は、「弥生時代後期後半（Ⅰ期）」、「弥生時代後期末～古墳時代前期への過渡期（Ⅱ期）」、「古墳時代前期前半（Ⅲ期）」の 3 時期に区分されます。Ⅰ期は台地中央部の平坦面に住居が集中するのに対し、Ⅱ、Ⅲ期は台地の南西—北東方向に列状をなして配置される傾向にあります。

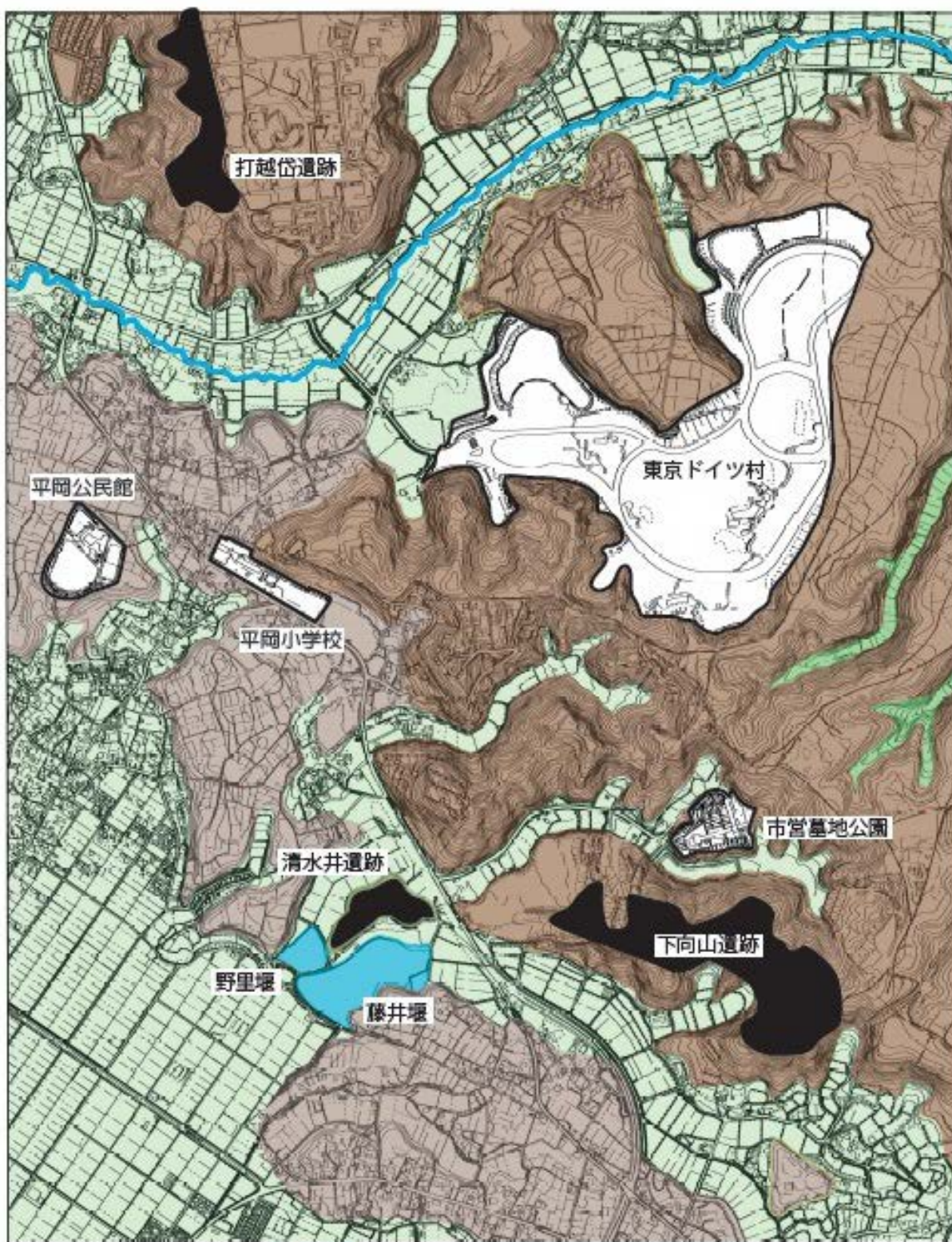
## 弥生時代後期～古墳時代前期にかけてのお墓 —清水井遺跡—

清水井遺跡は標高 37～40mの台地先端部に立地しています。西側の眼下には小櫃川の低地が広がっています。平成 4 年度に行われた調査の結果、旧石器時代～奈良・平安時代、近世の遺構・遺物が発見されましたが、中心は弥生時代後期～古墳時代前期になります。

遺跡からは「ほうけいしゅうこうぼ 方形周溝墓」と呼ばれる弥生時代後期のお墓が 5 基、「ほうふん 方墳」と呼ばれる古墳時代前期のお墓が 3 基見つかりました。これらのお墓はよく似た形をしていますが、清水井遺跡では、盛土の有無や出土した遺物で時期を区分しています。弥生時代から古墳時代にかけてのお墓の移り変わりを見ることができる貴重な遺跡です。

## ②全国初！ほぼ完全な形で発見された縄文時代早期中葉の土偶 —打越岱遺跡—

打越岱遺跡は松川を挟んだ平岡公民館の対岸の標高約 69mの台地上にあります。平成 26 年度の調査で、縄文時代早期中葉（今から約 9,000 年前）の土偶がほぼ完全な形で発見されました。この時期の土偶が完全な形で出土した例は全国的に見ても他にはないことから、極めて貴重な発見となります。



下向山遺跡・清水井遺跡・打越岱遺跡周辺地形図